



本当の問題は何か？

あなたの職場は「無関心」に陥っていると感じるかも知れません。しかし、水面下では必ず何かが起こっているものです。ここでは、無関心のように見える状況を理解し、対処するための方法について述べます。

「誰も関心を持っていない」

何が起きているのか 誰もが何らかの心配事を抱えていますが、その何かはあなたが考えているものとは違うかも知れません。

- ・あなたが取り上げたい課題は仲間にとっては重要ではないかも知れません。
- ・あなたがまだ気づいていない課題にその仲間は強い関心を持っているかも知れません。
- ・その課題はあなたや組合にとっては問題ではないと考えているかも知れません。

何をすべきか 聴くことです。

- ・あなたがもっとよく知りたいと思う同僚を何人か選びましょう。必ず話をして相手が何を考えているかを探りましょう。
- ・同僚がこだわっている課題に対して敬意と理解を示しましょう。そう感じてくれたとき、あなたの悩みにもっと関心を持ってくれるでしょう。

「物事を変えられるとは思えない」

何が起きているのか 同僚たちは自分が力を持っているとは、まだ思っていないのです。

- ・ほとんどの人は自分が無力だと感じ、職場が組織されていないといつも感じています。
- ・問題は取り組むには大きすぎるように思えます。
- ・上司が決めたことは最終的だと上司から思い込まされています。

何をすべきか 同僚を励まして、共に闘うことで状況は変えられることを見せましょう。

- ・みんなを集めて、集団として支え合うことで展望が築けます。
- ・小さなことから始めましょう。いま一緒にやっている仲間と勝てる闘いを探しましょう。小さなキャンペーンがうまく行ったら、もっと多くの人に加わり、自信が深まるでしょう。
- ・勝てる見込みのある計画を作りましょう。「どんな解決策を提案しているのか」、「経営側の誰がイエスという権限を持っているのか」、「その人物にイエスと言わせるために何が一緒にできるのか」を問いかけましょう。
- ・よそで有効だった戦術を同僚と共有しましょう。

「誰も何もしようとしない」

何が起きているのか 多くの人は自分からは動こうとはしませんが、信頼している誰かから直接頼まれたら応えてくれるかもしれません。

何をすべきか とても小さい具体的な頼みごとを作って、同僚に個人的に頼んでみましょう。

- ・同僚の生活には時間的制約があることに注意しましょう。
- ・仲間がやってくれたことに対しては大きな感謝を示しましょう。
- ・勝利はグループ全体で勝ち取ったということを明確にしましょう。

「誰も会議に来てくれない」

何が起きているのか 労働者は自分が参加することに意味があると感じなければ、会議に来ようとは思わないでしょう

- ・会議が「情報を得る」ためだけのものなら、簡単に欠席してしまいます。
- ・Eメールや掲示板でのお知らせでは、ふつう労働者は参加したいという気にはなりません。

何をすべきか 同僚に意味のある役割を与えましょう。その同僚が出席してくれているかどうかによって、その人が大事に思っている課題に影響があることを知らせましょう。

- ・会議は気持ちよく有意義な会議にしましょう。明確な議題、終了時間の設定、参加したくなるような火急の課題を用意しましょう。
- ・個人的に会って勧誘するのがベストです。職場を振り分けて、同僚に個人的な声をかける作業を担ってくれる人を複数見つけましょう。
- ・日程、場所、保育サービス、通訳、交通手段など、会議をより参加しやすくする実務的な事柄を考えましょう。
- ・柔軟に対応しましょう。会議に参加できない人もいるかもしれませんが、そのような人でも仕事中には組織作りの重要な役割を果たすことができます。